

**わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ実行委員会
第9回式典・会場専門委員会 議事録（概要）**

1 日時

令和5年(2023年)11月20日(月) 14:00~15:15

2 場所

滋賀県農業教育情報センター1階 第2研修室

3 出欠状況（五十音順、敬称略）

委員19名中17名出席

出席：明吉 正知、稲葉 芳子、片山 彰一、小林 昌彦、左谷 光夫（代：山内 剛）、
澤 英幸（代：一伊達 統）、田村 隆明、辻 保徳、豊田 則成、中島 誠一、中嶋 義基、
中西 茂郎、萩原 智行、伏見 強、村田 耕一、横井 正弘（代：臼井 正士）、米田 正博

欠席：大橋 奈希左、山本 順

（事務局：辻事務局長、他事務局職員8名）

4 配付資料

別添のとおり

5 会議概要

報告事項

※事務局から「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会の視察報告」について説明。

【質疑・意見】

<委員>

- ・鹿児島県総出で、滋賀県に対して歓迎してもらっている雰囲気があった。
- ・鹿児島県には前日から入っていたが、滋賀県出身だということを伝えるいろいろな方から感謝の意を表された。鹿児島国体開催のために、滋賀県は1年延期することになったことに対するお礼とのこと。
- ・総合開会式でも同様に、後催県に対してお礼の言葉があり、滋賀県に対して最大限のリスペクトがあったように感じた。
- ・総合開会式は、とても過ごしやすい天候であった。日差しもきつくなく選手や音楽隊にとってもとてもよかったのではないかと思った。
- ・個人的な話になるが、過去に国体の選手団入場をしたことがある。下からの景色は何度か見たことがあるが、スタンド側から見るのは初めてであった。大橋委員とともに視察をし、大橋委員から演技の解説をしていただきながら見る事ができた。
- ・雨が降ったが、両陛下が退席された後であったので、非常に神秘的な場面を見ることができた。
- ・3年待った大会でもあったので、大々的に事業を展開されていたように感じた。また、県民総出で取り組んでいたように感じた。ボランティアの方からも歓迎ムードを感じることができ、全体的に感動

的な式典（総合開会式）だったと思った。

- ・帰県し、本県ではどのような式典になるのであろうかと考え、大変楽しみだと思ったところである。

<委員>

- ・障スポ大会の開閉会式に参加した。こちらも天候に恵まれており、暑すぎず寒すぎずといった気温であった。
- ・栃木県の際は、日中がとても暑く熱中症患者が出るのではないかと危惧していた。閉会式は、後半の夕方ごろにはとても寒く、グランドコートを着なければ厳しいような気候だった。
- ・鹿児島県ではそのようなことは全くなかった。
- ・音響については栃木県の時は聞き取りづらかったが、鹿児島県ではそれが改善されたのか、問題なく聞き取ることができた。
- ・演技については、全体像を見ることはできなかったが、大型ビジョンで所々映されていたこともあり、確認することができた。また、10分程度の内容ではあったが、選手の方も飽きることなく、楽しんでいることができていた。
- ・ファイナルステージでは、地元出身のC&Kのコンサートがあったが選手も観客も非常に盛り上がっており、全体的に良かったと思う。

<委員>

- ・国体の総合開会式に参加した。
- ・入場行進の際、滋賀県のタイミングでは3分程度時間が押していたため、進行の方から「とにかく早く歩くように」と急がされた。進行には役員も参加しており、簡単ではなかった。また、何度も促されたこともあって、もう少し進行管理をしっかりできないかと思った。
- ・選手団の整列所（サブトラック）には、今まで大型ビジョン等で式典会場の内容が確認できていたが、鹿児島県ではそれがなかったため、何をやっているのかわからなかった。
- ・選手村が広いスペースで役員も中に入りやすく、ありがたかった。

<委員>

- ・国体総合開会式では雨が降ったとのことであったが、選手の方はそのままの状態であったのか。

<委員>

- ・選手団は県のスポーツ協会、鹿児島県のほうでカップを用意していた。
- ・雨が降ることはわかっていたので、整列所で事前に配られたものをポケットに入れておき、雨が降り次第着るといった流れになっていた。

審議事項

※事務局から「式典実施計画（中間案）」について説明。

→原案どおり承認。

※式典・会場専門委員会式典音楽部会会議公開方針第2条第2項（1）に基づき、非公開で審議。

以上